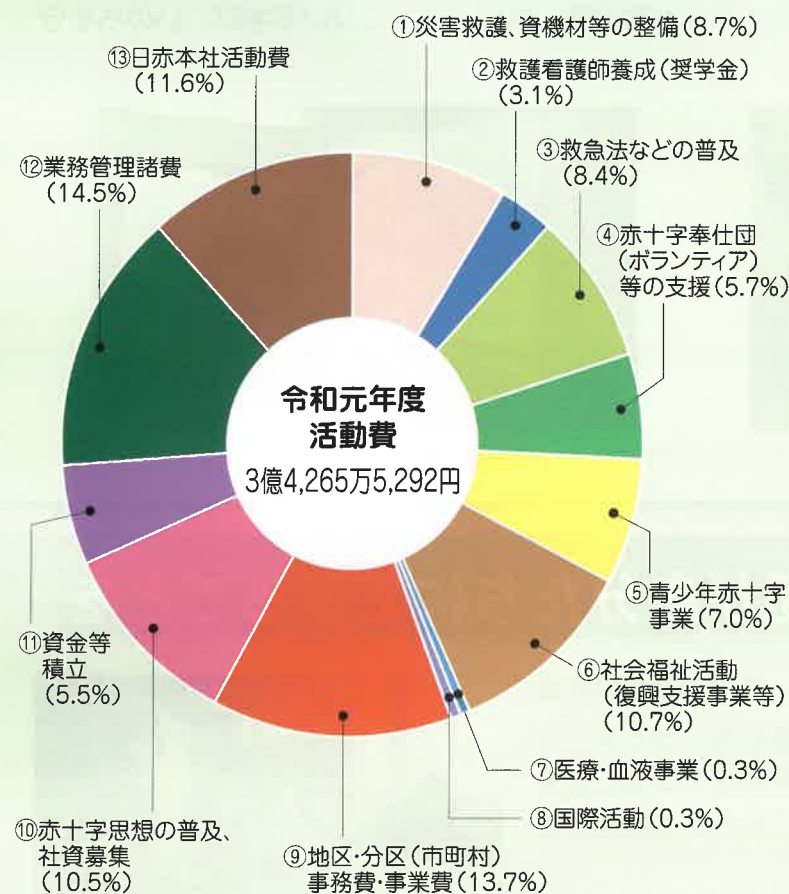


令和
元年度

日本赤十字社福島県支部 一般会計決算報告



【歳入】

①一般社資収入(個人社費、寄付金)	254,287,806円
②法人社資収入(法人社費、寄付金)	19,467,118円
③委託金収入	845,977円
④本社交付金	49,999,971円
⑤繰入金(資金、特別会計)	4,815,000円
⑥償還金収入	6,660,000円
⑦雑収入	4,209,944円
⑧前年度繰越金	61,799,552円
合計	402,085,368円

【歳出】

①災害救護、資機材等の整備	29,742,615円
②救護看護師養成(奨学金)	10,515,462円
③救急法などの普及	28,627,785円
④赤十字奉仕団(ボランティア)等の支援	19,711,374円
⑤青少年赤十字事業	23,977,409円
⑥社会福祉活動(復興支援事業等)	36,512,988円
⑦医療・血液事業	1,057,117円
⑧国際活動	1,164,000円
⑨地区・分区(市町村)事務費・事業費	47,019,860円
⑩赤十字思想の普及、社資募集	36,063,950円
⑪資金等積立	19,032,246円
⑫業務管理諸費	49,579,498円
⑬日赤本社活動費	39,650,988円
合計	342,655,292円
歳入歳出差引額(繰越金)	59,430,076円

※繰越金は、翌年度初めの活動資金となります。

令和元年台風第19号等災害義援金

36億4,683万1,692円

令和元年度に全国の日赤受付分であり、全額、福島県義援金配分委員会を通じて被災者へ配分されました。

あなたの思いを赤十字に

～ご自分や故人の思いを
広く社会に役立てるために～

日本赤十字社の行う様々な活動は国や県の補助金を受けておらず、赤十字にご賛同いただいた皆様からのご支援によって実施されます。赤十字へのご寄付は税制優遇措置がある他、ご協力いただいた金額により表彰制度を設けております。また、故人様の遺言やご遺族様からの「故人の遺産を広く社会のために役立てて欲しい」との尊いお申出に答えるために遺贈、相続財産のご寄付も承っております。

赤十字だからこそできる活動へのご支援ご協力をお願いいたします。



Instagram
やってます!



ハートマーク

発行所/日本赤十字社 福島県支部

〒960-1197 福島県福島市永井川字北原田17

TEL 024-545-7997(代)

<https://fukushima.jrc.or.jp>

日赤ふくしま



新型コロナウイルス感染症に立ち向かう赤十字

日本赤十字社では、横浜港に停泊したクルーズ船や、中国武漢市からの帰国者一時滞在施設に延べ255名の職員を派遣し、支援活動を行いました。

福島県支部でも、同クルーズ船に医療チームを派遣し、船内での診療活動を行ったほか、福島赤十字病院においては、感染された方々を受け入れ、医師や看護師たちが一丸となって、命を守る最前線で活動を続けています。



©Atsushi Shibuya, JRCS

日本赤十字社は、人道を胸に皆様のいのちと健康・尊厳を守るためこれからも活動をつづけます。

救いを託されている。

日本赤十字社 福島県支部
Japanese Red Cross Society

令和2年度の福島県支部事業

赤十字が行う事業は皆様からお寄せいただいた活動資金により支えられています。

災害救護訓練 **—いつ起こるかわからない災害に備えて—**

7月11日(土)、令和2年度災害救護訓練を実施しました。今年度は、毎年行う災害救護訓練に加え、新型コロナウイルス感染症への対応や、感染防御についての講義、個人防護具(PPE)の着脱衣の実習、避難所アセスメントなどについて、机上演習を行いました。

コロナ禍において豪雨災害などが起こった場合に、感染を拡げないためにどう対応するかを念頭におき、各種訓練に臨みました。



個人防護具の着脱方法を学ぶ



避難所での活動をシミュレーション

気づき・考え・実行する **青少年赤十字**

コロナ禍でも「命を守ることは後回しにできない」という各学校からの思いを受け、マスク着用、消毒を徹底して救急法などの講習会を実施しました。

また、各地の小学校において、服を着たまま水の事故にあった時に身を守るための着衣泳を実施し、一番大切な“浮いて助けを待つ”ための練習をしました。また、おぼれている人を見かけたら泳いで助けに行かず大人を呼んだり、近くにある浮くものを投げることなど、子どもたちが自分でもできることについて学びました。



講習は距離を保って実施しました



水に落ちたら「浮いて待て！」

防災セミナーや防災教室を実施

福島県主催の『家族で学ぶ防災セミナー』へ講師として職員を派遣し、避難する際の心構えや災害が起こる前に準備できることについて家族で話し合いました。また、止血の方法やビニール袋など身近なものを使ったケガの手当についても楽しみながら学びました。学校や幼稚園へ訪問しての「防災教室」では、災害時の非常食作り体験や、風水害や地震の際に危険な場所について学び、いのちを守る行動について考えました。



親子で避難について話し合う



幼稚園で危ない所はどこかな？

JRCメンバーや奉仕団が自分たちにできることを

6月、福島市立福島第三小学校の児童が、コロナ禍の最前線で頑張る医療従事者へ感謝の気持ちを届けました。メッセージとともに「自分たちが感染しないように気を付けていることも医療者のためになることに気がきました。これからも頑張ってください」という言葉を贈りました。

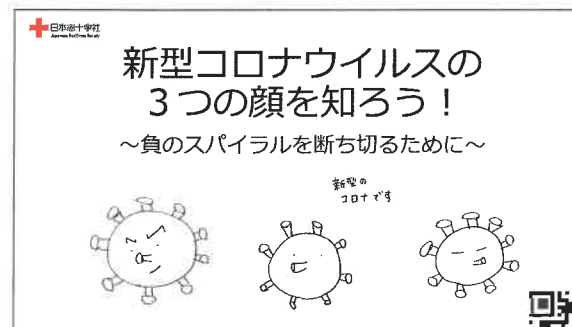
また、県内各地の奉仕団がマスクやガウンを手作りし、学校や医療機関などへ寄贈しました。



奉仕団によるガウン作り

新型コロナウイルス感染予防ガイド

日本赤十字社が作成した病気・不安・差別の3つの顔を持つ新型コロナウイルスが引き起こす“負のスパイラル”を断ち切るためのサポートガイド「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」や絵本アニメ「ウイルスの次にくるもの」を、当支部のホームページやインスタグラムに掲載するとともに、学校等で活用いただいております。



WEBで全編がご覧になれます



YouTubeが再生されます

